

令和6年度 第1回文化振興委員会 会議録

令和6年5月21日（火）午後2時～
豊田市民文化会館 会議室 A

出席者（敬称略）

委員	原田眞二（委員長）、葵真弓（副委員長）、相田祐里、小出充訓、原小百合、半田将仁	
オブザーバー	豊田彬子（理事長）、藤本聡（専務理事）	
事務局	岡本晴貴（文化部長） 〔文化事業課〕 原田秀樹（課長）、柴田崇博（副主幹）	〔市民文化会館〕 鈴木光行（所長）、梅村陽子（副所長）

1 あいさつ

豊田理事長
原田委員長

2 前回の委員会議事録の確認

「令和5年度 第3回文化振興委員会 議事録」

3 報告事項

(1) 今後の委員会議事録の公開について

委員 公開する目的は「改善」である。その目的が市民に伝わるような公開の仕方が必要と思う。

委員 委員の個人名は非公開。公開にそぐわない内容は削除することを容認する。今後、委員会の活動が市民にオープンになることを希望する。

(2) 令和5年度後期モニタリング報告について

※特に報告に対する意見なし

(3) 令和5年度事業報告について ※内容は別紙

委員 文化会館の「スマホでアニメーション」で作られた作品はどこかで見られるのか？

事務局 YouTubeで観ることができる。制作者の同意を得てある。

委員 「スマホでアニメーション」は職員からの提案なのか？

事務局 以前ライブラリー事業として実施したプログラムを子ども向きにアレンジした。
委員 作品の上映会などを実施すると、同伴しなかった家族も見ることができるのではではないか。

委員 「スマホでアニメーション」のYouTubeは「豊田市文化振興財団」で検索することで閲覧できる。45回の視聴実績が確認できた。短時間の作品ではあるが面白かった。

委員 「合唱団」「マーチング」の団員数の推移は？

事務局 合唱団のR6入団者は例年より少なく、在籍者数も減少（90人程度）した。適数100程度である。

マーチングのR6入団者は近年稀に見る多さだった。現在の在籍者数105人で

ある。定員は 120 人程度である。楽器不足、移動用のバスの台数増と経費負担増が悩みである。

委員 大会での受賞歴などをもっと PR に活用したらどうか。新聞などに広告を出すなど広域に団員の募集をするべきではないか。

(4) 令和 6 年度事業計画 ※内容は別紙

委員 全体的に昨年度の事業評価を加味した内容になったと感じた。「キーウ・クラシックバレエ」予算 1000 円とあるのはどういうことか？

事務局 プロダクションとの共催事業としている。費用は全てプロダクションが負担する。財団は会場手配と PR 及び一部の券売を担う。予算 1000 円は契約諸費用である。

委員 「文化活動者派遣事業」派遣される文化活動者のジャンル・アーティストはどのような方々か？

事務局 和太鼓（音楽）、三味線（音楽）、日本舞踊、吟剣詩舞、俳句（国語）、弦楽合奏（音楽）、声楽（音楽）、飛び出すカード（図工）、コミュニケーションワークショップ、舞踏体験。「和楽器体験事業」と「文化活動者派遣事業」を融合した結果、多様なラインナップとなった。

委員 小中学生のみをターゲットにするのではなく外国人向けのアウトリーチや博物館を会場に実施する試みも考えられるのではないかと思う。

委員 小学校の学芸会が無いからという理由で、こども創造劇場に参加するといった事例を伺った。子どもを取り巻く環境の変化で、部活動の形が変わっている現実がある。例えば、私の友人は、吹奏楽部に入部して楽器に出会ったのが縁で音大に進んだ。このように部活動がきっかけで将来の方向性が見つかるという偶然が減っていく。部活動をする機会のない子どもが時間を持て余す光景を見ると考えさせられてしまう。そのような子ども達の居場所として合唱団やマーチングが活かせるのではないか。

委員 豊田市の中学校には 25/28 校に吹奏楽部がある。豊田市は R8 年度に部活動の地域移行を目指している過程で外部講師を探していたが、20 校は目途が立った。残りの 5 校も関係団体に協力を求めたところ、前向きな回答をいただいた。関係団体側もこの機会に高校生以上の加入要件の見直し議論や、学校向けのアウトリーチ事業を実施するなど具体的な動きが出てきた。初回のアウトリーチは、団体のメンバーが勤務する中学校を選び、10 人程度のメンバーを派遣して、「楽器クリニック」と題したパート毎の指導と合同合奏又は派遣メンバーの演奏鑑賞を行う内容である。一例ではあるが、他の文化活動者もこの動きを活動の裾野を広げるチャンスと捉え、中学生から加入可能と要項の変更に及んだ団体もある。これは、中学生の選択肢の拡大にもなっている。

委員 TIA（豊田市国際交流協会）との人材交流の結果、英語の SNS 配信が可能になったということ PR するといい。派遣職員の紹介もすると思う。

事務局 制作中の機関誌と今後の YouTube チャンネルで TIA との交流等について紹介する予定である。

委員 派遣職員のスキルを活かすことはとても良いことだが、その人頼みにならないようにした方がいい。YouTube の視聴の仕方がもっと手軽に選択できたり、事業とリンクしていたりして検索し易くした方がいい。例年行われる内容であるならば、ア

ーカイクが簡易に選択できると良いのではないか。

委員 「お手軽映像制作講座」のタイトルは、事業実施時このタイトルで行うのか？
以前の「スマホでアニメーション」のままの方がよかったと思う。

事務局 「お手軽」は講座の名称として付けた。実施する時はもっとキャッチーな名称
を考えたい。

委員 「げきじょうたんけんツアー」は8月開催のチラシに12月の開催予告を掲載し
たほうが良い。先の予定の方が立てやすく、今回ダメでも次回なら、といった取り
込みができる。併せて二次元コードの掲載をしてHPに誘導する仕掛けが必要であ
る。これからの事業PRはもちろん必要だが、過去のものがあるとよい。開催風景
や参加者の感想の掲載も有効である。

委員 Facebook を活用して “今日こんなことがありました…”と配信し、そこにリンク
を添付するのが有効である。チラシに二次元コードは必須と考えた方がいい。

委員 「演劇ファクトリー」 TIA とのコラボは、非常に良い取組みである。指導担当す
る鹿目氏は言葉使い、コミュニケーションの仕方も丁寧で、指導に長けており、新し
い価値の創造が期待される。外国籍の方を交えた取組みは、外国籍の参加者、優れ
た指導者、マネージメントを担うスタッフ（職員）だけでなく、外国語がわかるスタ
ッフの存在も欠かせないキーパーソンである。そのような人材はいるのか？できれ
ば、文化芸術に造詣が深く、積極的で世話好きな方が望ましい。

事務局 TIA のスタッフに依頼することが一案となる。

委員 可能ならば、募集要項に外国籍の方の要件を詳しく掲載したらどうか？

事務局 今年度は募集が終了しており、次の機会に取り入れたい。

委員 「おいでんアート体験フェア」で以前、子どもがワークショップに興じているのを
垣間見て、大人も参加できるといいが、親子連れ以外は無理なのか…との感想が聞か
れた。大人も楽しめる方法も考えてみたらどうか。

委員 同じく、写真協会のブースは小学生を対象のプログラムだが、現実には同伴の保護者
が真剣になってしまう場面を多くみる。写真協会の場合は、大人のみでも対応可であ
る。

委員 「フードパントリー事業」と「あしながプロジェクト」との関係は？

事務局 フードパントリー事業は、こども食堂連絡協議会に文化会館の遊休施設を食品庫
として提供する事業である。こども食堂には、子どもの居場所を提供している団体、
食堂にくる子たちに勉強を教えている団体、食を通して親子の時間を提供している団
体などそれぞれ特色がある。一方、あしながプロジェクトは、様々な理由で舞台芸術
に触れる機会が少ない子どもたちに、文化会館の事業チケットをプレゼントする企画
であり、こども食堂に集まる子どもとその保護者が対象になるため、協力していただ
いている。

4 協議事項

- (1) 令和6年度モニタリング事業の選定について
各委員が個別に事務局へ希望事業を申し出た

(以上、会議終了)